



みどりのきずな

令和元年 12 月発行 第 38 号

編集: 緑区支え合いのまち推進協議会広報部会 発行: 緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8185 FAX:043(293)8284

『悲惨な戦争を二度と繰り返さないために』

「語り継ごう 戦争体験」 第十三回戦争体験を語る会

緑区支え合いのまち推進協議会 委員長 岡本 博幸

令和元年 7 月 15 日 (月)、おゆみ野女性の会主催・千葉市教育委員会後援『語り継ごう戦争体験』の会が鎌取コミュニティセンター 1 階創作室で開催されました。その主旨は次の内容です。

「7 月 7 日 (七夕の日) は、千葉市が空襲を受けた日です。今年もその日を迎えようとしています。毎年開催している『戦争体験を語る会』も今回で 13 回目となります。戦後 74 年が経過、人々を戦いへと駆り立てた『仕掛け』には様々なものがありました。それは、今私たちが楽しく、いとおしく、ロずさんでいる『歌』の歌詞の中にもあります。それらの歌詞に込められた思いを通して戦争への道筋を語り合ってみたいと思います。」

この主旨のもと、40 人余りの参加者と講師 (元大森小学校校長) 徳永 薫さんのアコーディオンの演奏によって会が始まりました。まず徳永さんから「作曲された戦時下の童謡歌詞、そこに込められた戦争への賛歌について」の解説を聞き、その後参加者が歌うという形式で進みました。

「海」「われは海の子」「めんこい仔馬」等々はみんな軍の命令で作られた歌です。童謡から戦争賛歌の 2 曲を紹介しましょう。最初は「汽車」です。作曲されたときは「兵隊さんの汽車」でした。歌詞は、

「汽車汽車 ポップポップ シュポシュポ シュッポッポウ 兵隊さんを乗せて シュッポシュッポ シュッポッポウ 僕等も手に手に日の丸の 旗を振り振り送りませう 萬歳萬歳萬歳 兵隊さん兵隊さん 萬々歳」

終戦後は「兵隊さんを乗せて」が「僕らを乗せて」に、「僕らも手に手に日に丸の～」が「スピードスピード窓の外 畑も飛ぶ飛ぶ家も飛ぶ」に、最後は「鉄橋だ鉄橋だ楽しいな」に変わりました。

次は『里の秋 (星月代)』です。1、2 番は現在と同じです。3、4 番が戦争賛歌の歌詞となっています。

3「きれいな きれいな 椰子の島 しっかり譲ってくださいと ああ父さんのご武運を 今夜もひとりで祈ります」

4「大きく大きくなったなら 兵隊さんだうれしいな ねえ母さんよ僕だって 必ずお国を守ります」

今、懐かしく歌われているこれらの童謡も戦前は戦意高揚の歌として歌われていたのです。「勝つまでは」の合言葉のもと、小学生も開墾・疎開・松脂とり・落穂ひろい・ススキの穂集め等々戦争に協力しました。図画の時間も音楽の時間も戦争一色でした。軍人内閣によって翻弄され、国民はどうすることも出来なかったのです。私は戦車や軍艦を描き、加藤隼戦闘隊や広瀬中佐の歌を声高らかに歌っていました。集団疎開もしました。干し草刈もしました。歌っていると小学生の頃の生活が走馬灯のように思い出されました。

日本は戦争のない平和な世が 74 年続いています。歴史上戦いが無かった世は平成・令和の時代だけです。この平和の世を百年・千年と続けていくことが私たちの努めなのです。地球上にはまだまだ争いが絶えません。世界中の国々が平和にならなくては、本当の平和はありません。その活動の一環として「語り継ごう戦争体験」は素晴らしい活動と思います。

最後においしい「すいとん (水団)」をいただきました。すいとんは、戦後食糧難の夕食の代用食として食べました。肉などありません。小麦粉も上等なものではありません。味も十分ではありませんでした。「今夜もすいとんか」と思いながら食べ空腹を満たしたことを思い出しました。この活動も「平和」実現への大事な活動の一つだと思います。

13 回開催してきたおゆみ野女性の会の皆様に敬意を表するとともに、これからも世界平和の実現に向かって活動していくことを期待しています。

令和元年度 緑区支え合いのまち推進協議会委員紹介

岡本 博幸 (委員長)、田宮 妙子 (副委員長)、篠崎 敏夫 (副委員長)、本田 英作、茂田 義明、伊東 優子、大槻 勝三、小山 義春、野崎 芳治、篠原 重樹、時田 豊、吉田 暢、茂庭 正昭、石本 春樹、山岡 功平、小林 正継、鴨 省次郎、廣田 健次、松戸 照彦、高橋 友和、宮崎 勝寛、布施 成章

椎名地区

児童の安全は地域全体で見守っています

登下校時の交通事故や不審者などから児童を守るため、セーフティウォッチャー隊員やわんわんパトロール隊など、地域ボランティアの皆さんが、声を掛けて見守っています。

椎名小学校では全児童と見守り隊が集い、「安全・防犯決起大会」を行いました。児童には交通ルールをしっかりと守り「自分の身は自分で守る」ことを、見守り隊は不審者や暴走車から児童を守ることを確認し合いました。



高齢でも心身とも まだまだ元気だよ！

「いきいきサロン」では、高齢に伴う心身の衰えを少しでも遅らせるために、音楽療法や健康体操などを取り入れていますが、そんな中で、特に「輪投げ」は脳と肩・足・腰をリズムよく使い、健康寿命延長には最適なゲームです。また、応援のため声を出し笑顔も出て、会場全体が盛り上がります。

年度末には年間の成績を発表し、上位者には賞品もあり、「来年は私も頑張ろう！」と励みにもなります。



誉田地区

町に爪あとを残した大型台風

9月9日（月）の未明、台風15号が千葉市付近に上陸、風速50m超の風が吹き荒れ、誉田地区でもいたるところで停電が発生しました。

高田町の万花台集会所付近では、夜明けとともに地元のコンクリート会社の社長が、ブルドーザーで道路に散在したガレキを、誰より先に排除していました。前に広がる畑は、作物がなぎ倒され、道路は倒木・電柱の倒れ、ケーブルの垂れ込み断線が目に入りました。以降、誉田中学校区内を、昼は損傷の対応状況、夜は停電範囲を見回りし、関係者の携帯電話に情報を発信するという日々が続きました。日を追うごとに電気がつき始めましたが、1週間以上停電の続いた地区もあり、地下水で生活している地域では身内の家に泊まりに行く家庭も目立ちました。

停電の間は、給水配布場所もありましたが、交通手段・高年者などへの対応のため、11日には万花台集会所に、東京水道局の給水車、発電機4台が配備され、緑区長じきじきに20時過ぎまでご協力いただきました。また、平川町にある浄水場から水とクラッカーの配布もありました。町会長・組長も交替で集会所に詰めて区と町会の対応にあたり、道路の倒木除去も、自衛隊・土木事務所・東電・NTT・有志の方々が、通行・停電の復旧に大きく貢献していただきました。

台風通過後は、各自が町役（班長・組長・会長・防災委員長）とともに居住地を見回り被害状況確認し、行政等に報告いたしました。また、管理団体（東電・NTT等）へは、異常部の電柱No.や番地を連絡しました。



土 気 地 区

ボランティア研修会・交流会の開催

7月10日（水）、土気公民館でボランティア研修会が開催されました。研修会では「みんなで身体を動かしましょう！」という内容で講師としてトレーナーの森谷亮子先生をお招きして実施しました。総勢90名を超えるボランティアの方が参加し、楽しく身体を動かす活動で時間はあっという間に過ぎてしまいました。

交流会では、4つのふれあい・いきいきサロンの活動の報告があり、他のサロンの活動の具体的な様子を理解しました。すぐに使えるレク活動も実践し、有意義な一日となりました。

ふれあい・いきいきサロンの活動

現在土気地区では19の地区でサロン活動を実施しています。サロンでは、ボランティアの方を中心として内容を工夫して取り組んでいます。歌、しりとり、小物づくり、折り紙、県名クイズ、漢字や計算、おしゃべり等々、様々です。

また、緑区健康課の協力で、毎年1回保健センター健康教育日として、「音楽療法」「いきいき体操」「健康・レク」「運動」の4つから1つを選択し実施しています。専門家の指導で楽しい時間を過ごせています。さらに2年に1回はあんしんケアセンターの職員の方の訪問があり、説明を受けたり質問したりと生活に直結する福祉について知ることができます。



7月12日 8丁目サロン 運動の活動

お ゆ み 野 地 区

おゆみ野泉谷自治会の見守り活動について

おゆみ野泉谷自治会では、見守り支え合いの運動についてのアンケートを、過去に数回行ってあります。本年年初に実施したアンケートでは2件の見守り希望がありました。その世帯については、普段より自治会役員が目を光らせていて、また週に1回の防犯パトロールの時に声かけを実施しております。活動状況は自治会の運営委員会で報告され、万全の気配り体制にあるといえるのが現状です。現在の希望者は2件ですが、今後もアンケートを実施し、新たな希望者が発生した場合もこの運動に取り入れていく所存です。

あんしんケアセンター鎌取 終活イベントの開催

皆様“これからの事”準備できていますか？

終活（エンディング）とは、人生を最後まで有意義に送る為、誰にでもある心配事や相続・お墓・お葬式などのこれからの事について事前に考え、準備をしておく活動です。あんしんケアセンター鎌取では、10月9日（水）、11月14日（木）にエンディングノートの書き方や身元保証・相続に関する講座を開催しました。参加者からは、「先送りにせずに出れることから始めてみたい。」「家族としっかり話し合いを持つようにしたい。」などの感想が寄せられました。あんしんケアセンターでは定期的に終活に関するイベントを開催しています。自分のこと、家族のこと、これからの準備について一緒に考えてみませんか。



福祉に関心のある街作りへの取組み（土気地区 セルフ・ガーデンハウス）

『令和』の意味は「春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる日本でありたい」という想いです。一人ひとりが、希望をもって、それぞれの花を大きく咲かせる世の中＝共生社会を目指して、私達の協議会は活動をしています。

社会福祉法人くちなし セルフ・ガーデンハウスも将来の共生社会に向けて1つずつ地道な取組みを行っています。

その1つに「中学生への福祉教育」を行っています。この福祉教育は障害を持った当施設の利用者さん達が中学校へ出向き、生徒達と交流しながら親交を深め、そして障害を持った人達が今まで経験してきた差別や辛さ・これからどういう社会になってほしいか等を直接話してもらい、そのリアルな声を聞いた生徒達が障害についての関心を持ち、これからの福祉や社会を考えていくための取組みです。



最初は緊張した面持ちだった生徒達ですが、交流を楽しみ、そして真剣に話を聞いていました。後日の感想では「今まで普通とは違う目で見えていたけど考えが変わった」「交流しないとわからなかった」「障害者の人達が安心して暮らせるよう私も努力したい」等、生徒達にとって色々考えるきっかけとなったようです。

今後もこの取組みを継続し、将来は緑区・土気地域が福祉に関心のある街になるよう努めていきます。

編集後記

台風15号による長期間の停電・断水では、他の福祉事業所にお風呂を貸していただいたり、その後の台風21号の大雨では、帰宅困難になった利用者さんを他事業所で泊めていただいたりといった支えあいがありました。とてもありがたいと感じましたし、また日頃からの支えあいの大切さを改めて実感しました。（Y・K）